

きょうから現地調査

水俣病
補償委

患者側との懇談も

水俣病補償処理委員会（座長千種達夫、中労委公益委員ら三委員）の現地調査が二十七日から始まるが、同委員会に一任した患者家庭互助会員六十四世帯（患者七十五人）では「これを機会にぜひ一般会員のナマの声を聞いてもらう」と張り切っている。

このため二十八日午後一時半から市役所で開かれる患者と委員との懇談会では山本亦由会長らは発言をひかえる方針のようで、とくに席上①親なきあとの胎児性患者の補償②補償解決後の医療費問題③などを中心に、実情を訴える。委員会の一行は二十七日午後三

時すぎ水俣市着、湯の児リハビリセンターを視察、二十八日は自宅療養の五人の患者を訪問、実情を聞いたあと、チッソ工場を視察。ついで患者と懇談する。二十九日は熊大の入鹿山教授と意見を交換する予定。